

# 令和 5 年度 事業報告書

(令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日)

## 目 次

### I 法人の概要

- 1 法人の名称
- 2 法人の所在地
- 3 認可年月日
- 4 沿革及び学園の組織
  - (1) 学園の沿革
  - (2) 学園の組織
  - (3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名
  - (4) 役員賠償責任保険の内容
  - (5) 設置する学校・園の名称及び所在地
  - (6) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況
  - (7) 設置する学校・園・学科等教員・保育士数の状況

### II 事業の概要

- 1 有明教育芸術短期大学事業報告
- 2 品川学藝高等学校事業報告
- 3 品川学藝幼稚園事業報告
- 4 品川学藝保育園事業報告

### III 財務の概要

※別紙資料の通り

学校法人 三浦学園

## I 法人の概要

### 1 法人の名称

学校法人 三浦学園

### 2 法人の所在地

東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

### 3 認可年月日

昭和 19 年 3 月 31 日

### 4 沿革及び学園の組織

(1) 学園の沿革 (別紙参照)

(2) 学園の組織 (別紙参照)

(3) 役員及び監事・評議員の氏名及び役職名

#### ① 理事・監事

〈令和 6 年 3 月 31 日現在〉

役職	選任事項	氏名	現職
理事長	第 2 号 理事	三 浦 洋 義	学園長
常務理事	第 2 号 理事	三 浦 裕 明	理事長補佐
理事	第 1 号 理事	若 林 彰	有明教育芸術短期大学学長
理事	第 3 号 理事	富 永 光太郎	(株)リヴィジョン代表取締役社長
理事	第 3 号 理事	陰 山 雄 司	岩井機械工業株式会社主幹
理事	第 3 号 理事	森 戸 由 久	創価女子短期大学名誉教授
監 事		朝 倉 和 行	(株)朝倉代表取締役
監 事		北 島 芳 昭	元(学)井之頭学園法人事務局長

#### ② 評議員

役職	選任事項	氏名	現職
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 洋 義	学園長・理事長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	三 浦 裕 明	常務理事・理事長補佐
評 議 員	第 1 号 評 議 員	中 西 菊 乃	有明教育芸術短期大学事務局長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	雨 宮 伸太郎	法人事務局長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	小 菅 雅 之	法人事務局経理課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	渋 谷 匡	有明教育芸術短期大学事務局広報課長
評 議 員	第 1 号 評 議 員	田 中 美 恵	品川学藝保育園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	水 本 眞 澄	元日本音楽学校幼稚園長
評 議 員	第 2 号 評 議 員	平 井 キミ子	品川学藝高等学校同窓会監査

評 議 員	第 2 号 評 議 員	新 井 清	(有) 希望商事代表取締役
評 議 員	第 3 号 評 議 員	磯 是 詔	元本学園法人事務局長
評 議 員	第 3 号 評 議 員	根 本 美 香	根本美香バレエスクール主宰
評 議 員	第 3 号 評 議 員	細 田 洋 平	合同会社よすが学院 代表

(4) 役員賠償責任保険の内容

理事会決議により、令和 3 年 6 月 1 日から役員賠償責任保険に加入

1. 団体契約者

日本私立中学高等学校連合会

2. 被保険者

理事、監事、評議員及び管理職職員

3. 主な補償内容

法律上の損害賠償責任に基づく賠償金、争訟費用等

4. 保険加入期間中の総支払限度額

1 億円

(5) 設置する学校・園の名称及び所在地

名称	所在地
有明教育芸術短期大学 子ども教育学科	〒135-0063 東京都江東区有明二丁目 9 番 2 号
品川学藝高等学校 普通科 (e スポーツエデュケーションコース) (リベラルアーツコース) 音楽科 (ミュージックコース) (パフォーマンスアートコース) バレエ専攻 ミュージカル専攻 (幼児教育コース)	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号
品川学藝幼稚園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号
品川学藝保育園	〒142-0042 東京都品川区豊町二丁目 16 番 12 号

## (6) 設置する学校・園等の入学定員及び学生・生徒・園児数の状況

(令和5年5月1日現在)

	入学定員	収容定員	学生生徒園児 現員数	令和5年度
				入学者数
有明教育芸術短期大学	100名	300名	247名	84名
子ども教育学科	100	300	247	84
品川学藝高等学校	100	300	275	165
普通科 (eスポーツエデュケーションコース)	100	300	57	57
(リベラルアーツコース)			21	21
音楽科 (ミュージックコース)			43	20
(パフォーマンスアーツコース)			144	67
バレエ専攻			48	19
ミュージカル専攻			96	48
(幼児教育コース)			10	—
品川学藝幼稚園	35	150	75	17
品川学藝保育園	9	26	26	5

## (7) 設置する学校・園教員・保育士数の状況 (令和5年5月1日現在)

## ①短大教員

設置校名	教授	准教授	講師	助教	助手	合計	兼務者
有明教育芸術短期大学	9	5	0	1	0	15	27

\*学長は教授に算入

## ②高校教員・幼稚園教員・保育園保育士

設置校名	専任教諭・保育士	兼務者
品川学藝高等学校	20	62
品川学藝幼稚園	6	5
品川学藝保育園	14	1

## II 事業の概要

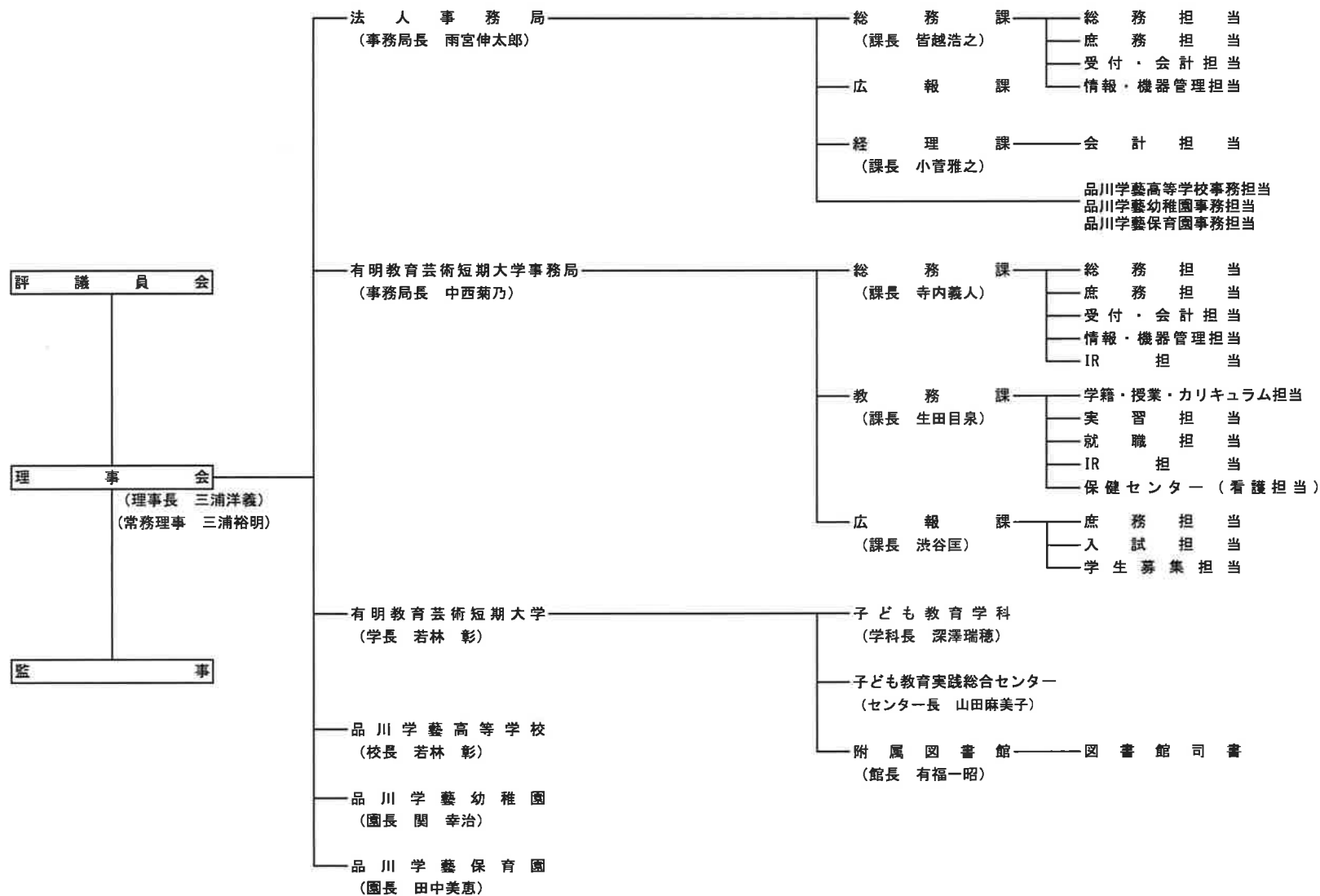
※各学校・園の事業報告は別紙資料の通り

## III 財務の概要 別紙資料の通り

法人の沿革	明治36年	山田源一郎により我が国初の私立音楽学校「音楽遊戯協会」として神田淡路町に創立
	明治39年	女子音楽学校(女子)・日本音楽協会(男子)に名称変更
	大正13年	校舎を中野打越に移転
	昭和2年	日本音楽学校に名称変更。創立者・初代校長 山田源一郎死去
	昭和19年	学校法人三浦学園成立(3月31日)
	昭和22年	校舎を品川区豊町に移転
	昭和24年	日本音楽学校附属幼稚園および日本音楽学校附属入新井幼稚園を設置
	昭和25年	日本音楽学校附属豊小学校、日本音楽学校附属豊中学校、日本音楽高等学校を設置
	昭和28年	日本音楽学校に我が国初の教員養成機関(中学校音楽教諭養成科)を設置し、文部大臣の指定認可を受ける
	昭和29年	日本音楽学校に文部大臣指定の幼稚園教諭養成科を設置
	昭和36年	日本音楽学校附属入新井幼稚園を廃止
	昭和47年	日本音楽学校に厚生大臣指定の保育養成科を設置
	昭和53年	日本音楽学校が専修学校に認可
	昭和63年	日本音楽学校創立85周年事業の一環として2号館校舎(教室、中ホール)竣工 日本音楽高等学校 音楽科「バレエコース」設置
	平成4年	日本音楽学校創立90周年事業の一環として三浦記念館(大ホール、幼稚園舎、視聴覚教室、特別教室)竣工
	平成5年	三浦洋義理事長及び学園長に就任
	平成7年	日本音楽学校附属豊小学校及び日本音楽学校附属豊中学校を廃止
	平成9年	日本音楽学校にレクリエーション・インストラクター資格者と児童厚生指導員の養成課程設置
	平成11年	厚生大臣指定東京聖星社会福祉専門学校(介護福祉学科)設置
	平成13年	日本音楽学校保育園設置
	平成14年	日本音楽高等学校 普通科「幼児教育コース」設置
	平成15年	日本音楽学校創立100周年
	平成20年	有明教育芸術短期大学 認可(10月31日)
	平成21年	有明教育芸術短期大学子ども教育学科及び芸術教養学科の二学科で開学
	平成22年	日本音楽学校を廃止 日本音楽学校附属幼稚園を日本音楽学校幼稚園に園名変!
	平成23年	日本音楽高等学校 音楽科「舞台芸術コース」設置 東京聖星社会福祉専門学校を廃止
	平成26年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科学生募集停止
	平成27年	有明教育芸術短期大学芸術教養学科廃止
	平成28年	日本音楽高等学校 普通科募集停止
	平成29年	日本音楽高等学校 幼児教育コースを音楽科として募集
平成30年	有明教育芸術短期大学創立10周年	
令和5年	日本音楽高等学校音楽科 幼児教育コースを募集停止 日本音楽高等学校を女子校から共学校に変更 日本音楽高等学校を品川学藝高等学校に名称変更 品川学藝高等学校普通科に「eスポーツエデュケーションコース」及び「リベラルアーツコース」設置 品川学藝高等学校音楽科の「バレエコース」を「パフォーミングアーツコースバレエ専攻」へ変更、「舞台芸術コース」を「パフォーミングアーツコースミュージカル専攻」へ変更 品川学藝高等学校音楽科の「音楽コース」を「ミュージックコース」へ名称変更 日本音楽学校幼稚園を品川学藝幼稚園に名称変更 日本音楽学校保育園を品川学藝保育園に名称変更	

I - 4 - (2) 学園の組織

(令和6年3月31日)



# 令和5年度 有明教育芸術短期大学 事業報告

## 1 教育課程

### (1) 教育課程の点検

5年度及び6年度の教育課程の点検を行った。入学生のニーズを考慮し、小学校教諭二種免許を単独でも取得できるカリキュラムに改訂した。また、社会情勢を踏まえ、数理・データサイエンス、AI教育関連科目、eスポーツ関連科目等を新設した。これに伴い一般教養科目を3科目廃止とした。

ライフキャリアは、キャリアの名前に関連させ過ぎる傾向による就職指導への偏りが見られたため、「未来デザイン」と名称を変更した。

また、カリキュラムの改訂に伴い、履修規則及び履修規則別表を改正した。

### (2) オンライン授業の効果的な実施、アクティブ・ラーニング型授業の推進

・各科目において、オンライン授業を試みた。コロナ禍時に実施した経験を下に、オンライン授業としての課題と成果を探った。6年度実施予定のオンライン授業月間への布石とした。取り上げられた課題としては、「提出課題の精選・教員の取組の差異・学生の Device 差による取組」である。

・「アクティブ・ラーニング型授業」を推進した。また「アクティブ・ラーニング型授業」の欄について、種類の分類を修正するとともに、各アクティブ・ラーニング型授業に関する説明を明示した。「履修上の留意点」の欄に授業への出席や欠席が加点及び減点要素になることを記載しないこと、学生が誤解するような表現も記載しないことを記した。

### (3) カリキュラム・ポリシーの見直し

『3つのポリシーの策定及び運用に関するガイドライン』にあるカリキュラム・ポリシーの考え方に沿い、本学カリキュラム・ポリシーに不足していた実施の方針及び評価の方針についての記載を加筆した。

### (4) 学生に対する教務的な指導

4月に新入生及び在校生に対して、履修に関するオリエンテーションを行った。

前期及び後期開始時に、個別履修指導が必要な学生に対して教務的な指導を行った。授業への出席率が低い学生に対して、呼出指導を4回(4/28 5/26 10/19 11/24)実施し、指導に応じない学生の保証人に対する通知措置を実施した。

### (5) 学習成果の把握・評価・公表

前期及び後期の GPA 分布状況にて学習成果の把握・評価をすると共に、本学ウェブ上に公表した。前期に「外部テスト」を実施し、学生の基礎学力の把握及び評価結果を踏まえた担任からのフィードバックを行った。また、「外部テスト」の結果から基礎学力が不足する学生を抽出し、補習課題を与える学習支援方策を試みた。効果的な学習支援方策の検討が今後も必要である。

## 2 自己点検・評価

### (1) 情報公開

令和4年度の教育課程に関する自己点検・評価をホームページで公開した。

(2) 令和5年度私立大学等改革総合支援事業

「令和5年度私立大学等改革総合支援事業（「タイプ1 特色ある教育の展開」）」が掲げる調査票に基づき、32の視点から整備した。整備の結果については、私立大学事業団に申請したところ選定大学となった。

なお、タイプ1の選定ラインは70点（本学は74点）となっており、短大の選定率は18%（申請130校、選定24校）である。

- 1 全学的な教学マネジメント体制の構築
- 2 IR機能の強化
- 3 卒業時アンケート調査の実施・公表
- 4 アクティブ・ラーニング型の科目の開講
- 5 情報リテラシー科目の開講
- 6 ICTを活用した教育の計画、体制整備及び双方向型授業や自主学習支援などの実施
- 7 GPA制度の導入及び活用
- 8 CAP制の設定
- 9 ティーチング・ポートフォリオの導入・活用
- 10 大学の教育活動への学生の参画促進
- 11 学修成果等の可視化
- 12 学修成果の企業等との意見交換の実施
- 13 学修歴証明のデジタル化
- 14 学力を多面的・総合的に評価する一般選抜の実施
- 15 一般選抜における記述式問題の出題
- 16 入学者選抜の多面的・総合的な評価及び学生の能力を伸長するための取組
- 17 アドミッション・オフィサーの配置
- 18 「数学」「情報」の試験問題の出題
- 19 総合的な英語力の評価
- 20 多様な背景を持った学生の受け入れへの配慮
- 21 多様な背景を持った学生への修学支援
- 22 高等学校教育と大学教育の連携強化
- 23 入学者選抜の妥当性の検証
- 24 IR等の知識を有し、データ分析を実施する専門職の配置及びIRの情報公表
- 25 数理・データサイエンス・AI教育に係る科目の開講  
実践的なデータサイエンスの実施
- 26 分野・学部等を超えたカリキュラム編成の実施及び改善・検証
- 27 インターンシップ科目の実施
- 28 実務家教員の活用促進
- 29 学生の学修の幅を広げるような教育課程の工夫
- 30 学事暦の柔軟化に関する取組
- 31 教育リソースの活用
- 32 過年度との比較



### 3 教員評価の実施

令和元年度9月に制定した「有明教育芸術短期大学教員活動評価実施規程」をもとに、教員評価活動は本年度も実施した。本学5度目の実施となる。

教員評価は本学教員が、自己の活動を点検し、評価することを通して、本学の教育研究活動の活性化を促進し、教員の諸活動への支援・啓発、本学の教育、研究及び社会貢献等の改善・向上に資するためである。対象者は、前年度1年間、本学の専任の教授、准教授、講師、助教であったものとする。評価は、「教育」「研究」「社会貢献」「管理・運営」の4領域としA～Dの評点に基づいて自己点検評価を行う。

<評価内容>

#### (1) 教育

①授業担当科目 ②学生の授業評価 ③教育方法の改善等 ④FD活動 ⑤サークル活動等 ⑥学生支援

#### (2) 研究

①学術論文・著作等 ②学会等における研究発表 ③芸術・体育系分野の業績  
④外部研究費の導入実績

#### (3) 社会貢献

①学会の役員、論文審査委員等 ②公的機関から委嘱された審議会、委員会等の委員  
③公的機関から依頼された研修会等の講師等 ④公開講座等

#### (4) 管理・運営

①全学的委員会及びその他の貢献実績 ②入試業務関連 ③管理職の実績

#### (5) 反省、省察

12月に教員活動評価実施要項に基づき、対象教員の令和4年度における教員活動評価を実施した。(提出者は13名中12名)

教員活動報告書に加えて、授業改善報告書を作成した3名に対し、規定に基づき顕彰を行った。(学長奨励賞・赤坂澄香・角杉美恵子・伊藤菜々子)

### 4. 研究活動

#### (1) 有明教育芸術短期大学紀要第15巻

・研究論文 3編 研究ノート 2編 その他 2編

<研究論文>

①Society5.0における特別活動の役割 (教授 石井友行)

②保育者養成校における表現指導についての研究~模擬保育実践を通して~  
(教授 山田麻美子)

③保育者を目指す学生の「観察する力」記録する力「考察する力」を向上させる指導方法に関する一考察 -テキストマイニングを活用した「子どもの観察記録」の感想の内容分析-  
(准教授 赤坂澄香)

<研究ノート>

①初年次教育における宿泊研修が与える影響に関する一考察 -有明教育芸術短期大学の1年生宿泊研修における参加者の変容をもとに-

(教授 石井友行 非常勤講師 佐野匡)

②在日朝鮮学校との共同研究について

—千葉ウリハッキョでの日朝教育研究会の授業研究— (非常勤講師 山崎早苗)

<その他>

①教育とeスポーツ (品川学藝高等学校教諭 伊庭崇)

②ゲームを通じた子供の学力向上~ゲームの役割と影響  
(品川学藝高等学校特別非常勤教師 若林次郎)

(2)子ども教育実践総合センター 子ども教育実践研究第7巻

<研究論文>

①乳児期・幼児期における言語活動 (教授 長田 信彦)

<研究ノート>

①大学におけるキャリア教育・支援の課題と対策 ~社会人基礎力の育成に向けて~  
(教授 池口洋一郎 キャリアサポートセンター佐越真紀子)

<実践報告>

①保育教材研究 「うたと手遊び」の授業実践 —領域「表現」との関連に着目して  
(准教授 信太朋子 准教授 松田扶美子)

②保育者養成校におけるピアノ弾き歌いの指導のあり方について  
(助教 伊藤菜々子)

③2023年度 実践教育研究会報告

—「保育・教育現場あるある話」から保育・教育実践を読み解く—  
(准教授 菊地 大介)

<その他>

①小さい子どもへのより良い音楽提供の在り方に関する調査と報告  
—歌唱や身体表現の実践から— (品川学藝高等学校教諭 松田乃利子)

## 5 募集対策

令和6年度募集実績は、出願者52名(昨年度の同時期と比較して28名減)となった。この世代(高校3年世代)である18才は、前後の世代と比較して減少していたため、60人入学に目標修正を行っていたが、年明けの進路未決定者や社会人、進路変更組が例年よりも少なく、目標値に届かなかった。出願者数が減っている要因としては、コロナ禍が一段落し、大規模な総合大学も含め、3年振りにほとんどの大学で来場型OCが開催されたことの影響等もあるのではないかと考えられる。入学確定者は53名となった。

## 6 退学者

退学者は、3名（4年度比 -4名）である。3名とも進路変更が理由である。その他、除籍は0名（4年度比 -5名）である。教員及び教務課職員によるきめ細かな個別対応の成果が上がったと考えている。

## 7 学生生活

### (1)初年次研修 1年生全員合宿の実施

#### ①合宿の目的

新入生の大学生活スタートを支援し、3年間の学びをサポートする第一歩としてガイダンス、オリエンテーション、親睦の機能をもたせた1年生全員合宿を行う。

・各種申請書類提出、授業履修、学修、子ども教育学科の概要など、大学生活に必要な情報を与える。

・保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等に向けた3年間の学修の流れなどについて、ガイダンスを行い、1年生が大学生活に見通しをもてるようにする。

・学生相互、上級生、教員との親睦を図り学生の人間関係形成を図る。

・新2年生有志のメンターは企画担当として活動の場を設定することにより、人間関係形成能力、リーダーシップ等の実践的な学びの場とする。

#### ② 実施の概要

##### ○実施日時・場所

2023年5月20日（土）、21日（日） 山中湖畔荘ホテル清溪

○参加者 1年生79名、2・3年生メンター、16名（2年）3名（3年）

教員12名 事務局1名 常務理事

### (2)有明祭

10月21日（土）22日（日）一般公開で実施。

学友会を中心に企画を行い、一般公開という形で実施した。サークル、有志の学生団体によるパフォーマンスを大ホール及びドラマ演習室で行った。飲食、展示、イベント等も実施した。全面的な面形式での実施であったため、学生の活動意欲は大変が高いものがあった。

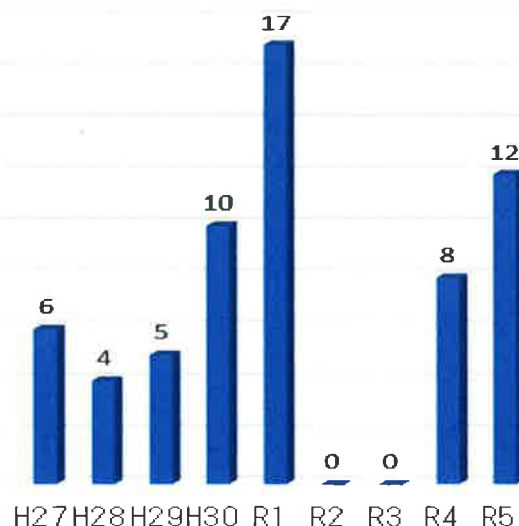
### (3)サークル活動

4年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防対応のため、原則、自粛としつつも、8団体のサークルが活動していたが、本年度はサークル活動実施可能とし、

12団体のサークルが活動した。

コロナ渦前の活動状況に戻りつつある。

サークル数の推移



## 8 キャリア形成・就職支援

公立小学校 11 名、公立保育園 3 名が合格。 キャリア形成・就職支援の充実を図った。

### (1) 公立小・幼・試験対策プログラム『夢 Realize (ユメリア)』の実施

『夢 Realize (通称：ユメリア)』とは、公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生が、夢の実現（公立試験合格）に向けて自主的かつ協働的な学びを行うための支援プログラムで学びを深めた。

ねらい	1年次から目標を明確にし、3年間の主体的な学習を通して夢の実現を図る。
受講対象者	公立小学校教諭・幼稚園教諭・保育士・児童館職員等を目指す学生
実施内容	同じ目標をもった学生が学習グループをつくり、学生が主体となって採用選考試験に向けて筆記試験や論作文、面接試験の対策・練習をする。 採用選考試験終了後は、現場で対応できる力を身に付ける学習をする。 それぞれのグループには指導員が付き、学習の進め方や論作文・面接の指導・助言を行う。また、グループ学習のほか、個別相談・指導にも対応する。※キャリアサポートセンターでは、曜日限定で「公立試験対策講座」を実施。
指導員	・学科教員・キャリアサポートセンター職員

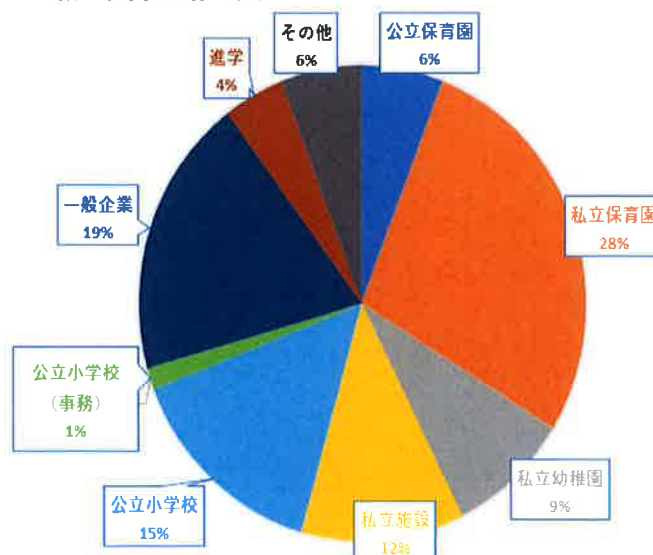
### (2) 就職状況

令和4年度卒業生		計	男	女
卒業生数		69	8	61
希望進路	就職	62	7	55
	進学	3	0	3
	その他	4	1	3
決定進路	就職	61	7	54
	進学	3	0	3
	その他	4	1	3

#### <進路内訳>

公立保育所・・・(4名)  
 私立保育所・・・(19名)  
 私立幼稚園・・・(6名)  
 私立施設・・・(8名)  
 公立小学校・・・(10名)  
 公立小学校(事務)(1名)  
 一般企業・・・(13名)  
 進学・・・(3名)  
 その他・・・(4名)

#### 令和5年度進路内訳



# 令和5年度 品川学藝高等学校 事業報告

## 1 改編について

令和5年度より、普通科開設、新コース設置、コース再編、男女共学とし、校名を「品川学藝高等学校」と改称した。

### (1) 普通科

#### ①e-スポーツエデュケーションコース

【育成する方向】 ゲームを教育に、学力の向上、人間性の向上

#### ②リベラルアーツエデュケーションコース

【育成する方向】 学力の向上、人間性の向上

### (2) 音楽科

#### ①パフォーマンスアートコース ・バレエ専攻 ・ミュージカル専攻

【育成する方向】 「踊って」「歌って」「演技して」全員で創るバレエとミュージカル

#### ②ミュージックコース

【育成する方向】 音楽を深く長く学び「心豊かな表現」が出来る力

## 2 学習活動

全てのコースにおいて、基礎的な学力の定着・学習意欲の向上を高める指導とともに、各コースの専攻実技や専攻実習の技能と表現を深める指導を行った。また、希望の進路の実現に向けて、指導の充実を図った。特に主体的な学びを重視した指導を展開した。

(※各コースの専攻実技や専門の授業も『学力』として捉えることを全教員で確認)

### (1) 指導計画の充実

- ・本年度より普通科が設置された事により、新学習指導要領完全実施を踏まえた上で、全ての科目において、指導計画の全面見直しを図った。
- ・主体的な学びを実現する為に、ねらいと課題が生徒にとって明確となるよう、指導計画を改編、作成した。
- ・専攻の実技についても指導計画を見直した。

### (2) 授業の質的変換

#### ・指導と評価の一体化

指導と評価の一体化の考え方を全職員で再度共通理解した。

特に、通知表などで家庭に成績を示すことの意義を確認し、評価を提示後の指導の充実の必要性を確認した。

#### ・観点別評価

観点別評価について、教員研修会を開き、意義、評価方法、観点の設置の在り方などについて共有した。

#### ・個に応じた指導の充実

習熟度に応じた学習の展開

英語指導のグレード化の実施

### (3) 高大連携

- ・有明教育芸術短期大学子ども教育学科 参加対象：幼児教育コース全員  
内容：模擬授業「うたと手遊び」4～7月（3年生2名参加）  
有明教育芸術短期大学の単位取得が為された。
- ・有明教育芸術短期大学一日体験学習 参加者 1年生全員  
内容 有明教育芸術短期大学にて火曜日に実施されている授業12科目を対象に、2科目を生徒がそれぞれ選択し、大学生と共に講義を受けた。

### (4) 修学旅行

- ・2年生 2月12日～16日 ハワイ  
生徒 79人 引率 5人

#### ◎目的

- ①ハワイ旅行を経験することによって、国際的感覚を養い、より広い視野にたち、物事を考察できるようにする。
- ②異文化の生活様式・考え方・風土を理解する。
- ③共同生活を通して、相互理解を深め、好ましい人間関係を高める。
- ④集団生活に必要な規律遵守・協調性・責任感を身につける。
- ⑤事前学習、現地学習、事後学習に主体的に取り組むことにより、研究・探究する姿勢を身につける
- ⑥自分の将来の夢を実現させるため、思考力、判断力を身につけるとともに、人間性の向上を図る

#### ◎実施内容・成果

海外（ハワイ）の文化と自然について学ぶとともに、英会話の実践的体験活動を重視した活動を行うことが出来た。ハワイ大学の学生と交流体験や街に出での英会話体験は実践的な学びとして充実した活動となった。

## 3 生徒指導

### (1) 建学の精神の周知

建学の精神と教育目標を額に入れ、全教室へ掲示するとともに、その意義について考えさせ、愛校心とともに学びへの意識向上を図った。

### (2) 基本的な生活習慣の確立

男女共学となり、昨年度の重点である「人と人のかかわり」をあらためて重視した。

#### ①)朝のあいさつ

「あいさつをする側」の体験

- ・生徒会主催（朝の校門） ・学級ごと ・外部の方との挨拶

#### ②)授業でふれ合う外部の人々とのふれあい

- ・特別授業 ゲストティーチャーからの学びの場における関わり方について実践
- ・外部の方との校内での出会いでのあいさつ、言葉遣いを重視

### (3) 規範意識の自律的育成

①「基本的な生活ルール」「社会のルール」について、自ら考え、判断し、身につける指導を重視した

#### ②校則による指導の撤廃

校則・ルールをただ守らせるから、生徒自身がなぜ守らなければならないのかを考えさせるようにした。制服の着こなしについても、生徒自身で考えられるようにするなど、自主性を重んじた指導の在り方について教員の意識改革を行った。

### (4) 「心と体のアンケート」年2回実施

定点観測して比較予定である。養護教諭の分析及び担任への周知を行い、生徒の生活改善・生徒指導に活かした。特にスクールカウンセラーとの面談指導に成果をあげた。また、三者面談で保護者への啓発にも活用した。

## 4 各学年における指導

### (1) 1学年

品川学藝高等学校の初の1年生として、また、多人数の生徒・男女共学・新コース体制と新しいことが多く、教員が戸惑うこともあったが、生徒は新しい環境にすぐに馴染んでいった。また、学校の中で最も生徒数の多い学年だったため、学校の雰囲気を読み取る面があり、先輩との関係が難しいこともあった。しかし、徐々に学校に溶け込み、品川学藝高等学校の一員として活動することができるようになった。素直さを持ち、前向きである生徒たちと感じた。来年度も新しい課題にぶつかることもあると思うが、その都度より良い指導を考えながら対応していく。

### (2) 2学年

生徒は基本的に真面目で、慣れれば教員とも様々話をするような可愛らしさも持つ。一方で、集団よりも個という意識が強く、周りを見る力や仲間に働きかける力、自分を律する力が弱い生徒も少なくない。来年度希望する進路を叶えていくために、また、最高学年として学校を創り上げていくために、これらの力を伸ばしていくことが肝要となる。最後の日音生であり、また品川学藝の生徒でもある生徒たちが胸を張って卒業できるよう、確実に専門と勉強を両立させて卒業の単位を取ることに、進路を実現させること、卒業公演に精一杯取り組むことが必須と考えて指導を行った。そのために自立・自律の気持ち、主体性を重視した指導を進めた。

### (3) 3学年

<前期>学年集会・オリエンテーションを利用して進路指導を進めた。最初のオリエンテーションにてキャリアパスポートを含めた進路活動を進め、進路実現に向けての意識付けを学年集会毎にできるよう企画した。7月8日実施の音楽科コンサートの成功で学年の団結力を深めることができた。

<後期>学園祭では、全校で行う行事として、最高学年としての自覚を一人一人が持ち、行動できるよう指導を進め、成果があがった。進路活動に関する面談は、随時三

者面談を繰り返し、最終的に生徒の希望の進学先に送り出すことができた。体調不良の生徒、情緒不安定の生徒は、保護者と連絡を密にし、学年の教員間でも状況を把握し続け、退学者を出すことなく、39名、全員で無事に卒業式を迎えられた。一年を通して、常に3学年全体で行動してきた結果、クラスの垣根を越えた仲間意識が生まれ、謝恩会では自主的に学年合唱が生まれた。

## 5 進路指導

### (1) 個に応じた進路指導

#### ①キャリア教育

自分のよさを理解し、自身の夢を持たせ、努力する指導を大前提として進めた。

#### ②指導計画の作成

進学の手導も含めて、これからの自己の在り方について考えるキャリア教育の手導計画を作成した。年度末に1・2年生へ進路希望調査の用紙を配布した。

#### ③進路への意識付け

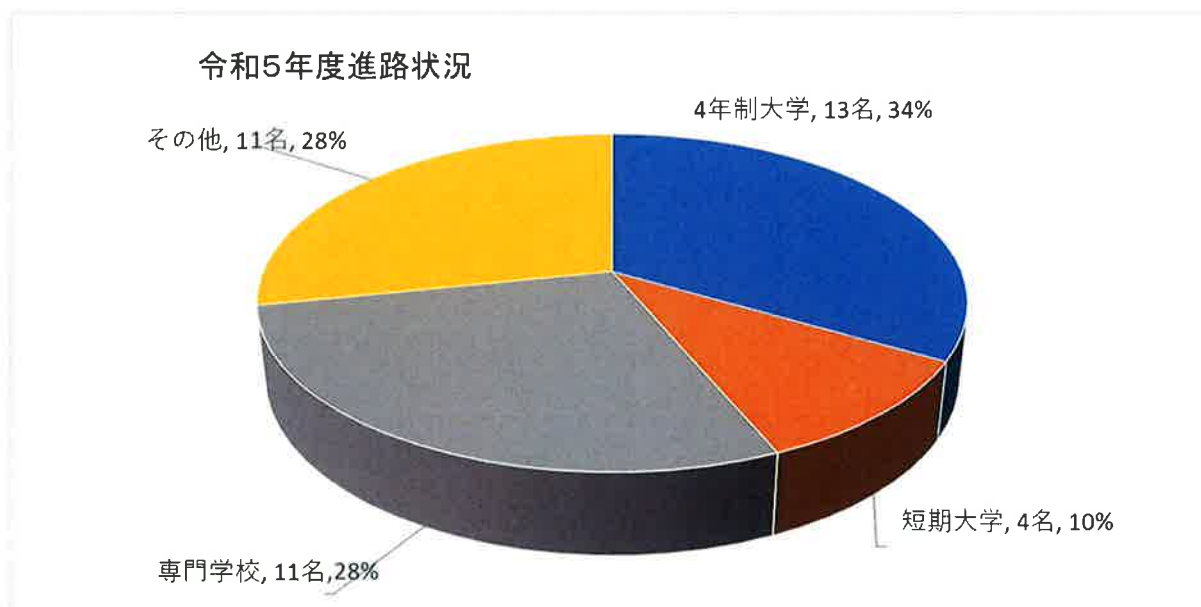
進路体験報告会、受験報告会を実施した。3年生対象の面接対策講座を6月に実施した。

#### ④総括

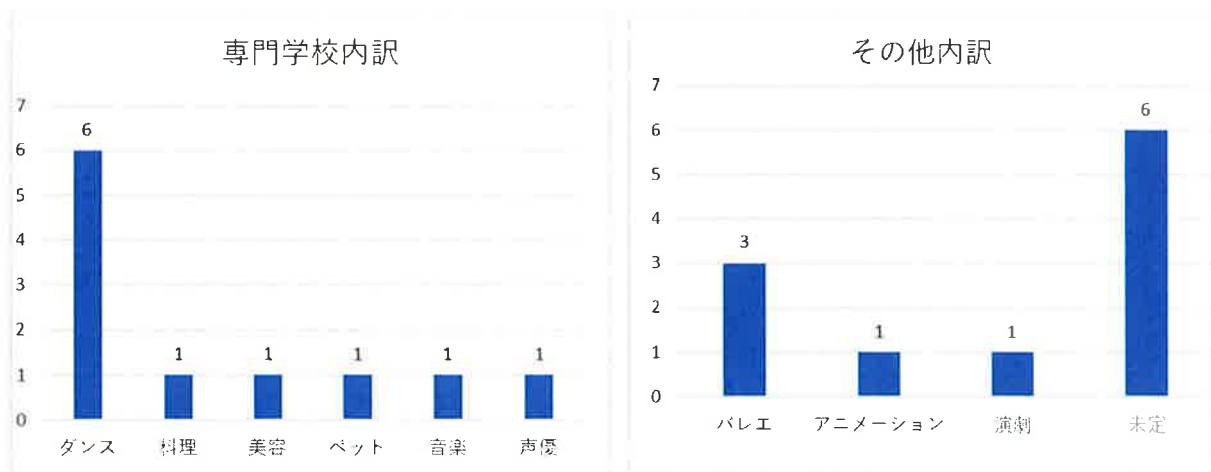
本年度も、キャリアパスポートによるキャリア教育を実施した。しかし、中学校からの資料が、本年度も地域、学校によって精度がまちまちで、高校として、小学校、中学校の情報をもとに、進路指導を進めることが困難であった。そこで、中学校からの資料を使用せずに、高校からのキャリアパスポートを作成し、進路指導を実施した。今後も、当面この状況が続くと懸念される。

本年度、生徒は希望する大学等のオープンキャンパスに積極的に参加していた。さらに自分の希望する大学等以外へも参加して、視野を広げる必要がある。

### (2) 令和5年度の進路状況







## 6 生徒募集

令和6年度 入学者数

	普通科		音楽科			合計
	eスポーツ	リベラル	バレエ	ミュージカル	ミュージック	
A 推薦	15	15	11	11	10	62
B 推薦	1	0	1	0	0	2
一般（1次）	42	24	19	40	11	136
一般（2次）	5	7	1	1	1	15
入学決定	63	46	32	52	22	215

受検者	102	101	41	62	34	340
合格者	90	92	38	56	34	310

(1)受検者数の増加：普通科の設置2年目となり、昨年度に比して受検者は1.5倍となった。受検者が昨年度の128名から202名に増加した普通科だけにとどまらず、音楽科の受検者においても81名から137名と増加してきている。

(2)普通科、一般合格148名の内、78名が入学し、52%の入学率である。音楽科は、一般合格93名の内、入学決定者は73名が入学し、78%の入学率である。これにより想定外入学者数となったと考えられる。

## 7 退学等

全校生徒に充実した学校生活を送らせ、高い満足度をもてるように指導してきた。特に学習面では、成績不振の生徒に前期終了時点から、補習を行い、学力の保証に努めた。途中転学した生徒の数は、以下の通りである。

<理由>

- ・コースの学習方針との相違から通信制高校に転学（9）
- ・宝塚音楽学校に転学（1）

### <途中転学や退学者数>

1年	普通科	eスポーツ	: 1名	リベラル	: 1名	計	2名			
	音楽科	バ	: 0名	舞	: 4名	音楽	: 1名	計	5名	
2年	幼	: 0名	音	: 0名	バ	: 2名	舞	: 1名	計	3名
3年	幼	: 0名	音	: 0名	バ	: 0名	舞	: 0名	計	0名
合計								計	10名	

## 8 開かれた学校づくり

### (1) 教育情報の積極的な発信

・本校公式ホームページは、家庭用PCだけでなく、携帯やスマホからも見るができるが、「品川学藝高等学校」の情報との併設により、若干確認がしにくくなった。しかし、品藝祭や音楽科コースコンサート、卒業公演は、積極的に配信できた。中学生が興味・関心をもてる本校の行事の情報や入試に関する情報も配信してきた。

### (2) 三浦学園グループの幼稚園・保育園・有明教育芸術短期大学との連携

・幼児教育コースの生徒による週に1度の併設幼稚園・保育園の実習や運動会の手伝い等、連携を深めている。  
・有明教育芸術短期大学と高大連携事業を行った。※2(3)参照

### (3) 地域との連携

・荏原第五地区の清掃ボランティア活動に参加した。  
・品藝祭や音楽科コンサート、卒業公演に関して、新型コロナ5類移行を受けて、近隣住民の方々、地域中学生を招待した。

## 9 その他

### (1) 教務システムのデジタル化

・フルクラウド型校務支援システム「BLEND」の活用が本格的に開始された。授業出欠管理、教員間連絡、保護者間連絡などに活用をしている。

通知表もペーパーレスで保護者へ開示、学習指導要録、調査票についても、デジタル化による作成が進められた。

・学校日誌をデジタル化は、2年目の運用となり、作成者（校長補佐官）、副校長、校長、事務局が閲覧、確認がスピーディに行えるようになっている。

### (2) タブレット端末の活用

・全教員がタブレット端末（サーフェース等）を所持することにより、校務システム、授業での活用が進められた。WI-FIシステムが強化され、より使用が便利となってきたが、システムが不通の場所もあり、さらなる充実が求められる。

・生徒への端末（iPad）を今年も1年生全員に配布し、1、2年生全員が所持している。しかし、セキュリティが強すぎて、授業での活用に不便をきたしており、効果的活用について模索中である。

# 令和5年度 品川学藝幼稚園 事業報告

## 1 保育活動

「園生活は 子どもが主人公！」を合言葉に、心身ともに健康な人間の育成を目指した。保育者との信頼関係を基盤に、集団生活の中で自己を十分に発揮し、主体的に遊びや生活が進められるようになるために、学年に応じた指導の重点を設定した。

### 3歳児（すみれ組）

- 一人一人の発達や育ちを踏まえ、基本的な生活習慣を身に付けられるようにする。
- 保育者に親しみをもち、安心して過ごすことができるようにする。
- 自己の想いを出しながら遊びを楽しめるようにする。

### 4歳児（ばら組）

- 伸び伸びと自己を表現しながら好きな遊びを繰り返し楽しめるようにする。
- 友達と関わる中で、相手の思いに気づいたり受け止めたりして、一緒に遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

### 5歳児（まつ組）

- 自分のめあてに向け、試したり考えたりして取り組み、やり遂げる達成感を味わえるようにする。

指導の重点を受け、月ごとの指導のねらいを達成できるよう取り組んだ。月ごとの指導のねらいについては、園だよりを通して保護者に周知した。

#### （1）英語指導

ジェマ・ヘムス先生の指導を受け、4歳児、5歳児が取り組んだ。月2回程度（1回30分）の指導を受けた。英語の歌を歌ったり、動物や果物、野菜の名前を英語で言ったりと楽しく活動した。簡単な会話も行い、英語に親しむことができた。3月から、3歳児と4歳児の指導に変わり、令和6年度の移行をスムーズにできるようにした。

#### （2）器楽指導

渡辺正明先生の指導を受け、毎週5歳児が取り組んだ。（1回1時間）10月までは運動会の鼓笛演奏に向けての指導を中心とした。11月からは、遊戯会に向けて、4歳児、5歳児の器楽指導となった。2月からは、4歳児が鼓笛演奏の初期指導を受けた。

#### （3）体育指導

4歳児は月2回（1回45分）櫻井由香先生から指導を受けた。3月は3歳児に移行した。5歳児は松本幸浩先生に運動会の組体操、リレーの指導を受けた。9月から短期間で集中して行うことができた。

#### (4) 幼小連携

コロナ禍で思うとおりに実施できていなかったが、令和5年度も品川区立宮前小学校と交流をもつことができた。

##### ①小学生職場体験 10月27日(金)

宮前小学校より本園卒園生2名が来校。3歳児は遠足で不在であったが、4歳児・5歳児と交流を深めることができた。

##### ②小学校との交流会 1月18日(木)

5歳児が宮前小学校に出向き、2年生児童と交流した。体育館において、2年生児童が考えたゲームを楽しんだ。小学校の様子を垣間見ることができた。宮前小学校には、園児との交流会だけでなく、授業体験や給食体験を入れてくれるよう申し入れた。

##### ③小学校散策 1～3学期

5歳児が4月から通学する小学校を外から見学した。園児が通う予定の小学校を見学し、園児一人一人の気持ちを高めることができた。

#### (5) 環境教育

保育室内に数個の飼育箱があり、カマキリ、ヤゴ、クワガタ等を飼育していた。園児たちの興味関心は高く、この機会をとらえて園庭にビオトープを設置した。めだかを放ち、いつでも観察できるようにした。

#### (6) 日々の保育

週案に沿って計画的に指導を行った。糊やクレパス、絵の具の使い方、折り紙の折り方など基本的な方法を指導し、園児が表現を楽しんでできるようにした。

また、ハーモニカや鍵盤ハーモニカ、カスタネットなども基本的な使い方を指導し、演奏活動を楽しめるようにした。

## 2 園の行事

コロナウイルス感染対策として行事が思うように実施できない期間が続いていた。コロナウイルスが5類に移行になったことを受け、感染対策を行いながら、コロナ以前に戻すことを考えた。今までの園行事に近いものとして実施を図った。

### (1) 遠足

① 1学期 4歳児 林試の森公園 5月26日(金)

5歳児 " 5月26日(金)

電車を使って実施した。前週が雨天のため、同日の実施となった。

② 2学期 3歳児 鮫洲運動公園 10月27日(金)

4歳児 萩中交通公園 10月20日(金)

5歳児 " 10月13日(金)

③ 3学期 5歳児 お別れ遠足 上野動物園 2月9日(金)

当日、小学校の入学説明会があり、保護者が迎えに来られないため、何名

かは園に戻り、預かり保育を実施した。

(2) 運動会 10月7日(土)

高校の校庭をお借りして実施した。午前中の開催とし、全園児一堂に会して行った。コロナ感染対策を図りながら、参観制限は設けなかった。

(3) サマーフェスティバル 7月22日(土)

保護者の会主催。

(4) 遊戯会 12月9日(土)

各家庭6名までの参観とした。オンラインでライブ中継を行った。

(5) 卒園式 3月16日(土)

参観制限を設けず実施した。両親のみでなく、兄弟、祖父母の姿も見られた。

3 園児数の推移

	4月1日	3月31日
3歳児	19	22
4歳児	16	16
5歳児	23	23
計	58	61

※3歳児の増加は、途中入園

4 卒園児の進学先

品川区立三木小学校	5名	品川区立宮前小学校	4名
〃 戸越小学校	3名	〃 豊葉の杜学園	2名
〃 大井第一小学校	1名	〃 山中小学校	1名
〃 第四日野小学校	1名	〃 城南小学校	1名
〃 大原小学校	1名	〃 伊藤小学校	1名
〃 台場小学校	1名	〃 京陽小学校	1名
横浜市立川島小学校	1名	計	23名

5 園内のデジタル化の推進

(1) 保育システムのデジタル化

保育ICT支援システム「ルクミー」(ユニファ株式会社)を使用している。出欠席の管理、体温の記録、保護者と園からの連絡等に活用している。また、ルクミーを使用して写真の販売や預かり保育(キンダー)の申し込みもできるようになった。通知のペーパーレス化が促進できた。

(2) iPadの活用

全教職員(7名)にiPadを配布、出欠席の確認や、保護者からの連絡確認に活用している。オンラインでの個人面談や保護者会等の運用も視野に入れて活用を考えていく。

6 園児募集の試み

(1) 園庭開放

1回目は正門にポスターを掲示、2回目以降は園庭開放時に予告した。

- ① 1回目 4月12日(水) 11:45~12:30 4家庭参加
- ② 2回目 5月17日(水) 11:45~12:30 10家庭参加
- ③ 3回目 7月26日(水) 気温上昇のため中止
- ④ 4回目 9月20日(水) 11:45~12:30 6家庭参加
- ⑤ 5回目 1月10日(水) 11:45~12:30 3家庭参加
- ⑥ 6回目 3月13日(水) 11:45~12:30 11家庭参加

(2) 2歳児教室

対象は、本園卒園児家庭とその他家庭(園庭開放で周知)

- ① 1回目 5月9日(火) 6家庭参加
- ② 2回目 5月17日(水) 5家庭参加
- ③ 3回目 5月24日(水) 6家庭参加
- ④ 4回目 5月31日(水) 6家庭参加
- ⑤ 5回目 6月7日(水) 4家庭参加
- ⑥ 6回目 6月14日(水) 5家庭参加
- ⑦ 7回目 6月21日(火) 5家庭参加
- ⑧ 8回目 6月28日(水) 6家庭参加
- ⑨ 9回目 7月5日(水) 6家庭参加
- ⑩ 10回目 7月12日(水) 5家庭参加
- ⑪ 11回目 9月6日(水) 8家庭参加
- ⑫ 12回目 9月13日(水) 8家庭参加
- ⑬ 13回目 9月20日(水) 8家庭参加
- ⑭ 14回目 9月27日(水) 6家庭参加
- ⑮ 15回目 10月3日(火) 7家庭参加
- ⑯ 16回目 10月11日(水) 10家庭参加
- ⑰ 17回目 10月18日(水) 9家庭参加
- ⑱ 18回目 10月25日(水) 9家庭参加

保険料 3,000円 1回 1,500円 を徴収した。

(3) 入園説明会

令和5年度は1回増やし、3回実施した。

- ① 1回目 7月8日(土) 10:00~
- ② 2回目 9月16日(土) 10:00~
- ③ 3回目 10月14日(土) 10:00~
  - 1回目 19名(入園希望者 6名 検討 13名)
  - 2回目 15名( " 5名 " 10名)

3回目	6名	(	〃	4名	〃	2名)
合計	40名	(入園希望者	15名	検討	25名	

## 7 預かり保育

### (1) 実施状況

#### ①通常保育後の預かり保育

- ・預かり保育延べ園児数 2,995人
- ・実施日数 189日 1日平均 15名

#### ②長期休業期間中の預かり保育

- ・預かり保育延べ園児数 698名
- ・実施日数 42日 1日平均 16名

#### ③振替休園日の預かり保育の実施

- ・10月10日(火)運動会振替休園日 6名(年長4名、年少2名)
- ・12月11日(月)遊戯会振替休園日 7名(年長3名、年中2名、年少2名)

#### ④(冬季休業中)1月4日(木)5日(金)の実施8名(年長5名、年少3名)

#### ⑤(令和6年度)4月1日(月)～5日(金)の実施33名(年長7名、年中26名)

### (2) 実施上の課題

#### ①担当者の配置

- ・通常時の預かり保育は預かり担当(キンダー担当という)  
通常勤務時間 9:30～17:30  
18:30まで園児が残る場合 10:30～18:30
- ・担当者が休暇等を取得した際には、担任が代番をするが超過勤務となる。
- ・長期休業期間中はキンダー担当者だけに任せしまうと、他の教員との勤務日数の差が大きくなる。このことから、長期期間の預かりに係る日数の均等化を図る必要があった。

#### ②預かりの園児

- ・振替休園日の預かりは、『月極め』の園児のみとした。
- ・給食は提供しなかった。

### <年間事業>

基本方針 品川学藝保育園の基本方針・保育目標・保育方針を基本に保育課程に沿って全体的な計画・年間指導計画・二週計画案・日案を立案し、一人ひとりの発達・発育に合わせて丁寧に関わり保育を実践している。

### 保育実践

- ・新型コロナウイルスが5月より5類に移行となり、今年度は例年通りのような行事を活動に取り入れることが出来た。
- ・戸外遊びも近隣の公園で繰り返し遊ぶ中で慣れ親しんでいる。クラス別に興味や発達に沿った戸外での活動を計画し、夕方学校グラウンドや幼稚園園庭にも足を運び体を動かし遊ぶ事ができた。  
8号館スペースで遊ぶ事を喜んでいたが年度途中で工事が入り、以降は幼稚園2歳児教室を活用させてもらう。近隣の公園は混みあう事も多くあり、予定を変更し他の公園に移動する事がある為、法人施設が利用でき、のびのびと遊べる環境は園児はもちろんの事保護者の方も喜んでいて、公園で遊ぶ際には、公園チェック表を用いて安全管理を行う。
- ・室内遊びでは発達に応じて玩具を入れ替え、レイアウトを変更し対応している。
- ・外部から講師を招いての活動（べんちゃんと遊ぼう・英語）は、子ども達も積極的に活動に取り組む姿があり、保護者からも大変好評である。今年度は「英語で遊ぼう」の回数を増やし新たな言語や文化に触れて楽しんだ。英語のアルファベットや文字に興味を持ち、絵本や図鑑に触れる機会も増えている。
- ・今年度も、ゆたか図書館の方を招いてお話を開催した。いつもと違う絵本や、大型紙芝居をよく観ていた。今後も園に招いて絵本や楽しいお話に触れる機会を持つ。今年度は年3回招き行事の一環として捉えている事を図書館司書の方も喜んでいて。
- ・食育活動の一環として、行事食を提供したり、2歳児はピザトースト作りを経験できた。ベランダにて季節の野菜を通年育て、水やりや育つ過程をととても楽しみにしており、また給食で提供し喜んで食べていた。今年度はキノコを割いたり白菜をちぎるなど、調理手伝いの回数も増え意欲的に取り組む姿が見られた。今年度ももちフジ産業との給食業務契約が終了となり、次年度より一富士フードサービスと新たに契約を結び、引き続き食育活動に取り組む。
- ・今年度も、安全に十分配慮し水遊びを行う。学校グラウンド脇にて、開放的な空間で大いに楽しめた。
- ・2歳児園児と職員で、エコル戸越へ遊びに行く。みんなで初めて展示室に行き、遊ぶことが出来た。公共の場でのお約束や遊び方など、2歳児なりにしっかりと考え、楽しむ姿があった。
- ・年度途中で、6号館より保育園備蓄・非常食を高校地下に移動し保管している。
- ・ヒヤリハットを用いて安全対策に十分な注意を払い、職員同士での周知もできた。記録に残す習慣をつけることが今後の課題となる。



## 保護者支援

- ・保育参加をはじめ行事等は感染症の動向を見ながらも、以前のように行事予定を実行できた。保護者の要望もあり、2歳児英語で遊ぼうの保護者参観も開催できた。全家庭の保護者が参加した。
- ・保護者の方に外国籍の方も増えており、連絡帳はローマ字対応や個々に応じた細やかな援助を行う。
- ・地域の保護者・見学者31名（5月～11月）
- ・トキドキ保育（空き定員を活用し、未就園児を対象にした定期的な預かり事業）は12月より0歳児1名が週に1度利用していた。申込開始より非常に多くの希望があり、次年度も継続して行っていくと良い。この数年は4月から夏頃まで定員に（特に0歳）空きが目立つので、この事業を行いつつ通常保育の定員を増やしていくと良い。

## 地域交流

- ・ゆたか保育園・ほうさん保育園との交流を多く取り入れ行き来できた。（交流する保育園に卒園後の希望を出す保護者もいる。）
- ・近隣の商店に買い物に行ったり、保育の教材を受け取りに行くなど地域資源を活用し保育に取り入れていた。子ども達もお店の前を通ると挨拶をしたり、ハロウィンのお礼に子ども達の制作を渡したり、保護者と買い物に行く等その後も継続して関わっている。

## 研修

- ・近隣の保育園職員と互いに見学をし環境面を学んでいる。手作り玩具など参考になる物も多くあり職員で共有できた。今年度は室内遊具の作成を園内研修に取り入れ2歳児保育室に設置した。
- ・品川区主催ののびしなプロフェッショナルスクール研修や東京都の厚生労働省主催の研修に参加し、知識や技術の習得すると共に職員会議等で報告し職員に周知できた。今後も研修時間の確保が課題となる。オンラインでの研修が職員により賛否あり、今後は意向も聞きながら進めていく。
- ・キャリアアップ研修にも参加しやすくなっているが職員一人一人が、次に学ぶべき項目や学びたい研修、キャリアアップ研修をはじめとした学びへの意欲を深めていく。そのために個人目標の用紙に研修の欄も加える。
- ・AED講習（職員全員） ・救命講習（看護師）

## 職員分担・勤務形態

- ・事務の時間を確保する習慣が職員全体についてきた。勤務時間内に終われるよう作業等効率化を図る。
- ・リーダー会の回数を増やし、伝達事項等はその場を利用し、夜の職員会議時間の短縮を図った。又クラスの打ち合わせも時間の確保が難しいとの声は必ずあり工夫が必要となる。
- ・新年度当初は園児数も少なく職員配置も十分な設定ができるが、園児数増加には見通しを立てるのが難しく職員募集は課題が残る。（保育士がすぐには見つからない。）
- ・年2回職員のヒヤリングや自己評価表を用いて振り返りを行う。

## 令和5年度 第三者評価

8月から第三者評価保護者アンケートを配布し、95%以上の回答率があり保護者の方の協力が非常に多かった。保護者からの声も温かく協力的なものが大半で、職員の一層の励みとなった。

1期（4・5・6・月） ・春の健診 歯科健診
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児受け入れ・4月1日現在 0歳児1名 1歳児10名 2歳児10名 計21名</li> <li>年度初めの4月は品川区全体的に保育園の希望者が特に0歳例は少ない。</li> <li>・はじめましての会 ・子どもの日の祝い会 ・保護者会（資料配布）・保育参観 ・苗植え（2歳児）</li> <li>AED 新規交換</li> </ul>
2期（7・8・9月） 8月より0歳児2名 1歳児1名入園
<ul style="list-style-type: none"> <li>・水遊び（学校グラウンド）沐浴・シャワー開始</li> <li>・七夕会・お祭りは在園児のみ</li> <li>・2歳児は英語で遊ぼう（年間6回） ベンちゃんと遊ぼう（毎月活動）</li> <li>・エアコン掃除</li> </ul>
3期（10・11・12月） 10月より0歳児3名 ・秋の健康診断 ・歯科検診
<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会延期（感染症拡大）12月に開催</li> <li>・ハロウィーンでは、近隣の商店の方や保護者の方よりお菓子を頂く。</li> <li>・第1回拡大委員会開催 ・個人面談（希望者のみ） ・小さな音楽会（動画配信）</li> <li>・お楽しみ食事会 ・布団乾燥 ・トキドキ保育開始</li> </ul>
4期（1・2・3・月）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新年おめでとう会・節分・ひな祭りは園内で楽しむ</li> <li>・保護者会 ・うさぎ組卒園遠足（エコル戸越・映像展示室）</li> <li>・2歳児クッキング（ピザトースト作り） ・第2回拡大委員会（書面開催）</li> <li>・さようならの会Aスタジオにて卒園児・保護者のみの参加とし執り行った。</li> <li>・学校110番新規交換 ・設備点検 ・カーテンクリーニング</li> </ul>

写真販売・・・3回 動画配信・・・3回